

『 F O L L O W 』

作・木村 繭真

○登場人物（女性4名。役を分けて5、6名でも可）

彩

真弓

佐野／先輩

西田／母

幕が開く。

上手、下手それぞれに椅子と机が1セットずつある。主に真弓は舞台の上手側半分、彩は下手側半分のみが行動範囲。照明によって適時エリアを絞る。

暗闇に、スマホを持った真弓が浮かび上がる。

「」内に書いてあるセリフはスマホやパソコンに表示されたものを表す。

多くは話者がスマホにフリック入力 of 動作をしながら発するため、手にスマホを持っていない、もしくは視線が画面に向かっている(例外あり)。

真弓

「だるい」「めんどくさい」「きもちわるい」「学校いきたくない」「高校受験したくない」
フォロー0、フォロワー0、鍵なしのアカウント。

「つらい」「なんで?」「産んでおいて消えるとか最低な親」「死にたい」

「お腹痛い」「弟が言うこと聞かない」「抱きしめられたい」「つかれたあー」

「うるさい」「なんで授業中しゃべるの?我慢できないの?なに笑ってるの?」「うざい」

「死んでほしい、いやむしろ死ぬべき。わたしが。」「心が狭いから」「あー」「あー」

「あー」

【いいね】の通知音。

真弓

え……【いいね】されてる。

リプライの通知音。

真弓

え、リプきた。

下手側・明。彩、浮かび上がる。

2人

「わかる」

彩

「人間キモっ」「エゴの塊」「なんなんだよ、死ぬ」「男は猿、女は影」「単為生殖のみで

ok」「忘れたい」「半年後にはJK」「クロワッサンは正義だ」「あー、ピル飲むの忘れる」

「金くれ」「ついでに愛も」「は?推しかわよ。神すぎん??」「かわいくなりてえー」

「痩せたい痩せたいガリガリになりたいいい」「鬱」「演劇部平和すぎて草」「死にてえ」

【いいね】の通知音。

彩

……。

リプライの通知音。

2人

「わかる」

真弓

……フォロー、1。

彩 フォロワー1。フォロワー、1。
真弓 フォロワー、1。

2人、微笑む。

真弓 閉じては開き、開いては閉じる。メモ帳よりもオープンで、暗い宇宙の果てにある場所。
彩 冷えた、静謐なところに映り込む、あなたの影、輪郭。
真弓 生ごみ臭い言葉にも、意味があるような気がした。
彩 山積みになった吸い殻を掻き分ければ、失くしてしまった未来が見つかる気がした。

暗。

上手側・明。教室。佐野が駆け込んでくる。

佐野 おはよー！真弓ママー！真弓おかーあさんっ！

真弓 佐野ちゃん朝から何そのテンション。

佐野 うちら友だちだよな？同じ釜の飯を食った仲だよな？

真弓 修学旅行でね。

佐野 数学の宿題見せてえ？

真弓 また？

佐野 一生のお願い！高橋のお願い！

真弓 あれはイツセイだから。高橋イツ、

佐野 昨日彼氏と喧嘩になってさ。もう受験近いのに、毎日連絡してくるんだよ？違うくない？

一緒に頑張るって、そういうことじゃなくない？

真弓 仲直りしたの？

佐野 途中で返信こなくなった。

真弓 ー。

佐野 別の高校受けるしさ、なんか、このまま離れて行くんじゃないかって。

真弓 待ってみれば？平井くんも考えてるんじゃない？

佐野 気まづいんだよなー、

真弓 堂々としてたらしい。私は佐野ちゃんに賛同する。

佐野 ころづよすぎー。

真弓 いつでも頼ってくださいーい（机からノートを出す）。写すだけじゃなくて、意味も理解するんだよ？じゃなきゃ突っ込まれてバレるから。

佐野 ご迷惑はおかけしません！

真弓 どうぞ（渡す）。

佐野 ありがとう！真弓すぎき！

佐野、真弓にハグ。

真弓 はいはい。

佐野 すぐ返すね！

佐野、去る。

真弓 きりーつ、気をつけー、れい。おはようございます。(少し間があつて)あ、(手を挙げて)はい。……まあ、去年もやったので、大丈夫だと思えます。昨日、加藤さんとは電話で話したんですけど、私が代理で伴奏するからって言ったら、すごい謝られました。みんなと最後の合唱コンクール出たかつたつて。早く治して学校来たいつて、言つてました。

上手側・暗。下手側・明。

舞台前方に寝転び、床に置いたスマホを見ている彩。

彩 「宿題くらいやれよ」「結局丸写ししただけ」「同レベルお似合いカップル」「今日も塾。ピアノ練習できない」「吐きそう」「おばあちゃんちのピアノ弾きたい。でもおじいちゃんに会いたくない。こわい」「イライラする」「唇噛む癖やめたい」「リストカットつてどんな感じなんだろ」

彩、起き上がる。

【いいね】の通知音。上手側・明。真弓、スマホを見ている。

彩 「切ったらすつきりするよ。私は太もも。レグカ。バレない」

通知音。

真弓 レグカ……レググカット？ ……「よくやるの？」

通知音。

彩 「軽いのは3日に1回くらい。しんどいとき、深いのは2カ月に1回とか。歩き方変になる笑」

通知音。

真弓 「いつから？」

通知音。

彩 「DM行くね」

通知音。

真弓 ……。

真弓、自分の太ももを切る想像をする。

彩 「小6のとき」

DMの通知音。真弓、スマホを見る。

真弓 「早いね」

彩 「バレて母親に泣かれた」

真弓 「いいお母さんだね」

彩 ……。「私のせいで脆くなった」

真弓 ……。「うちの母親は中1のとき出ていった」

彩 「離婚？」

真弓 「手紙と離婚届を置いて消えた」

彩 「クソじゃん」

真弓 「だいぶクソ」

彩 「父親はどう？」

真弓 「仕事で忙しい。それより弟が大変」

彩 「何歳？」

真弓 「11歳。小5」

彩 「反抗期？」

真弓 「そんな感じ」

彩 「うぜえ！とか言われる？」

真弓 「それはないけど、鏡殴って割ったり、親の財布からお金盗ってた」

彩 「万引きとかしてそう」

真弓 ……。

上手側・暗。

彩 ……。

下手側の照明・薄明り。

彩は机上のノートパソコンを開き、眼鏡をかける。

彩 (咳払い) あー。アメンボ赤いなー。なあー。あー。あー。いー。うー。えー。おー。
おー。(リップロール)(深呼吸) よっしゃ。

【配信開始】のキーを押す。照明の光量戻る。

彩

こんばんはー！皆さんお久しぶりです、元気でしたかー？……あ、シヨウタさん久しぶりー！あ、朗々さん「アヤちゃん元気だったー？」もー、彩は元気じゃないですー。受験勉強に疲れて、我慢できずに来ちゃいましたー。ん、P団長さん「通知びびった」あはは、突然の配信ごめんさい。なんか最近だるくって。勉強のせいっていうのもあるんですけど、演劇部引退してから人と喋ること減っちゃってー、実は彩、友だちいないんですよ、だから……「知ってる」知ってるってひっどー！え、ナオトさん久しぶりなのに、彩に冷たくないですかあ？みんなに癒してもらおうと思ったのにー。「ぼっち？」そう、彩は究極のぼっちですよ？「演劇部の同級生とは喋らないの？」あー、そっか、そうだよ。えっと、言っただけですけど、彩ね、中3になるタイミングで転校してきたんですよ。県外にお引越。だからみんな初めましてで、人見知りにはツライ。まあそもそも地元の演劇部の同級生とも、教室では喋らないんですけどね。だってみんな基本陰キャなんで。なんか放課後だけ元気なんですよねあの人たちって。ウケますよね。まあ彩もただけどさ……最近写真フォルダ見返したら、演劇部の写真があって、すごい平和でさ、いい笑顔してんの。懐かしくって、涙出たんですよ、やばいですよね……。あ、えっと、今日は声だけ配信です。はい。ゆっくりまったりで行きましょう。ね。はい。……えっと、あ、じゃあ、皆さん最近ハマってるものってありますか？彩はね、相変わらず若手女優のエナミンを推しています。愛おしくてたまりません。ご存じの方も多いと思いますが、今度ドラマで待望のヒロイン役を……あの、ごめんさい、皆さん喧嘩しないでください、コメントはちゃんと読んでます、読んでますけど、今日はそういう配信じゃないので、っていうか、そういうのもうしないんで。BANされちゃいますし、ね、もうしませんので……スクショ、え、スクショってなんですか？いつのやつですか？……、

彩、ノートパソコンを勢いよく閉じる。

眼鏡を外し、椅子の上で膝を抱えて顔をうずめる。

下手側・暗。

上手側・明。

真弓

散々だった。合唱の最中、指がもつれた。一瞬、どうすれば指が動くのか分からなくなつた。固まった自分の指が、得体のしれない何かに見えた。

真弓、スマホを手にしてSNSを開く。

真弓

「みんなに恥をかかせた」「大丈夫だよ、ってほんとう？」「みんなの本音が分からない」「別に出しゃばったわけじゃない」「自信があったわけでもない」……、「私は、誰かに必要とされたいのかな？」

真弓、宙を見つめる。
間。

【いいね】の通知音。

下手側・明。彩、スマホに言葉を打ち込んで消しを繰り返す。しばらくしてDMの通知音。真弓、スマホを見る。

彩 「馴れ馴れしくしてごめんなさい。」

真弓 ……。

彩、スマホを置き、机からカッターを取り出す。椅子に座った状態で太ももを露出し、刃を出して刃先を肌当てる。力を籠めようとした瞬間DMの通知音。
彩、スマホを見る。

真弓 「弟は、ASD」

彩 ASD……？

真弓 「弟は、人の気持ちを考えるのが苦手で、服とかシャンプーとか、こだわりが強く、自分の思いが通らないとかんしゃくを起こす。わがままだけど、万引きは、しない。たぶん。」

彩 自閉スペクトラム症。

真弓 「弟は、繊細。すぐ不安になるし、泣いてたと思ったら笑ってる。夜は壊れたパソコンを分解しては組み立てて、何度も繰り返し、夢中になって、お母さんのことを考えないようにしてる。たぶん。」

彩 ……。

真弓 「弟は、私よりずっと孤独。」

問。

彩 「通話したい。」

真弓 ……。「なんで？」

彩 「ちゃんと謝りたいし、声、聴きたい。」

真弓 ……。「かわいい声じゃないからダメ。」

彩 「私がかわいくない。かわいくなくていい。」

真弓 「なんで声聴きたいの？」

彩 ……。「孤独だから」

真弓 ……。

彩 「ヒトは、ホモサピエンスは、文化的なフリをした欲のケダモノ。己の快楽のため他人を蹂躪し、生存のため偽善を振りまく。無償の愛なんて、倒錯した狂気ではない。みんな綺麗で常識的な皮を被ってるだけ。そんな人間が嫌いなのに、私は、洋画とか海外ドラマが好き。人間滅べよって思うのに、演劇部に入ってた。優しい部員のみんなが好き。でも転校して遠くに離れた。クラスのみんが声をかけてくれるけど馴染めない。推しのエナミンを見て元気をもらおう。それでも夜寂しいから配信をしてた。顔出しするようになってフォロワーが増えた。気持ち悪い人も増えた。汚い言葉に流されて、純粋な言葉が埋もれ

ていく。好きだった空間が消えていく。虚しくなって切りたくなる。赤黒い血と、熱く痛む傷が、私を目覚めさせてくれるから。なんとか生きていける。」

真弓

……、

DMの通知音。

彩

……、

彩、操作し、やがてスマホを耳に当てる。
着信音。真弓、出る。

彩

こんばんは。

真弓

こんばんは。

彩

……かわいいじゃん、声。

真弓

……そっちこそ。

2人、微笑む。

暗。

駅アナウンス『3番線、下り列車がまいります。黄色い線の内側までお下がりください』
上手側中央・明。駅のホーム。ベンチで西田がすすり泣いている。
そこへ真弓がやってくる。西田のほうを気にし、やがて声をかける。

真弓

大丈夫？

西田、気づかない。

真弓、隣に座り、再び声をかける。

真弓

大丈夫？

西田

……！ すみません、大丈夫です。

涙をぬぐい、鼻をすする西田。

電車の発車ベル。笛の音。

真弓、鞆からラムネを出す。蓋を取り、

真弓

手。

西田

……？

真弓

ラムネ。

西田

……。

真弓

頭フル回転させたでしょ？だからエネルギー補給。

西田

……。

西田、片方の手のひらを出す。
真弓、出す。

西田 どうも……。

真弓、ラムネを食べる。

真弓 めっちゃ難しかったよね。もう数学なんかぼろぼろだよ。

西田 南高校？

真弓 うん。校内で見かけたよ？

西田 ……。

真弓 ヤだよー試験って。なんで試されなきゃいけないんだって、まあ意味は分かるけどさ、
やな感じだよ。

西田 ……うん。

真弓、今いるホームの屋根と向かいのホームの屋根の間の空を見る。

真弓 雨降りそう。傘ある？

西田 折り畳み持ってる。

真弓 夜まで降らない予報じゃなかった？

西田 そう、だったかも？

真弓 あ、地域で違うか。

西田 一緒の方向じゃないの？（上手方向を指す）

真弓 私はあっち（下手方向を指す）。

西田 え、3番線いま電車行ったよ？

真弓 行ったねえー。

西田 次、1時間後とかじゃない？

真弓 ヤだよねド田舎。都会じゃなくてもいいからさ、太平洋側がいいよね。カラッとしてるし、
どこも栄えてて本数も多そう。完全に偏見だけど。

西田 ……。

真弓 でも、何か待つのは嫌いじゃない。

西田 どうして？

真弓 待つことは期待することだから。私は期待したい、何事も。期待できなくなったら
終わりな気がする。何もかも。

西田 ……、

西田、ラムネを食べる。

真弓 お、食べた。

西田、笑う。

西田 あんまい。

真弓（笑み、） あんまいよね。

駅アナウンス。『1番線、上り列車がまいります。黄色い線の内側までお下がりください』

真弓 来るね。

真弓、西田に優しい微笑みを向ける。

西田 ……名前、

真弓 ん？

西田 名前教えて。もし、もしも受かったら、登校してすぐ会いに行く。

真弓（満面の笑みで） 真弓。まことのゆみと書いて真弓。苗字は内緒ね。

西田 え、なんで。

真弓 っていうか私が落ちてる可能性全然あるからね？

西田 あ、確かに。

真弓 え、ひど。

2人、笑う。

西田、立つ。

真弓 じゃあね。

西田 ……ありがとう。

去っていく西田。明かりが椅子と机に集まっていく。真弓は立ち上がり、椅子のもとまで歩く。電車の発車ベル。正面に向かって手を振る。笛の音。真弓、椅子に座ってスマホを出し、入力。

真弓 「つかれた」

大きなため息をつき、目をつむる真弓。
暗。

下手側・明。

彩、メッセージを送る。

彩 「演劇部！真弓も入ってみなって」

上手側・明。

真弓 「興味はあるけどなあ」

彩 「渡邊さんだっけ？同じ中学の子、演劇部入るんでしょ？」

真弓 「あの子は中学でもやってたからねえ」

彩 「敷居が高い？」

真弓 「うん」

彩 「真弓は向いてると思うな」

真弓 「どうして？」

彩 「優しいから」

真弓 「優しくないよ。自分のために動いてるだけ」

彩 「それにさ、県大会突破すれば、ブロック大会で会えるようちら」

真弓 「ブロック大会って何？」

彩 「東北ブロックとか、近畿ブロックとか。そこらへんの県代表が集まってやる、全国大会の1個前」

真弓 「うちら同じブロックになるんだ？結構遠いのに」

彩 「真弓は日本海側だもんね笑」

真弓 「いいなー、彩は太平洋側で」

彩 「しかも今年はこっちが開催県らしいから、来れるよ太平洋側」

真弓 「遠征ってやつか！」

彩 「うちは地区落ちしても運営として駆り出されるっばい」

真弓 「よく分からんけど勝てばええんやろ？」

彩 「せやで！」

真弓 「とりあえず明日渡邊氏と見学行ってみる」

彩 「いえす、ふぁいと！」

暗。下手側中央・明。

彩、机から台本を出して見ている。

先輩（体操服姿）、入ってくる。

先輩 ねえ、ちよつといい？

彩 いま忙しいんで。

先輩 ……ちゃんと人の話聴きなよ。

彩 忙しいって言いましたよね？結局喋るんだったら確認する意味ないですよね。

先輩 あんた態度悪すぎ。

彩 悪いなら悪い理由があるんじゃないですか？

先輩 私のが気に入らないんでしょ？

彩 わかっているじゃないですか。

先輩 （ため息）彩も経験者だから意見違うこともあるかもしれないけどさ、露骨に喧嘩売るのは部活の空気悪くなるからやめて欲しいんだよ。

彩 意見っていうか先輩のは命令じゃないですか。演じてる人の意図、全然聴かないじゃないですか。ああしてこうしてって動かされて、操り人形みたい。

先輩 ほかの1年生はまだ台詞覚えることでもいいっばいっばいなんだよ。見え方とか見せ方とか、意図だとかそういうのはまだ早いんだよ。

彩 やって楽しいと思いますか？答えを探すだけの作業、覚えたことをなぞるだけの繰り返し。もっと自由にやらせてあげればいいじゃないですか。

先輩 自由にやるためにはまず知ることから始めなきゃ。人に見られながらセリフを言う、聴く、動く、いろんな要素があって大変なこと、彩も始めたころのこと思い出してみなよ。緊張して固くなってるのに、自由なんて逆に負担でしょ。場に慣れること、引き出しを作ることが大事。

彩 そういう理屈っぽいのがみんなの緊張を煽ってるって分かんないかな。

先輩 入ってまだ1カ月ちよつとだよ？新人公演の意味わかってる？

彩 まず演劇って楽しい！って思ってもらえるようにしなきゃダメなんですよ。理屈ばっかでつまんないって、みんな辞めたらどうするんですか？先輩は『人を使う側』の見方しかしてない。

先輩 そりゃ演出だからね。ちゃんと観れる舞台になるように、全部まとめなきゃいけないの。別に私を悪者にしてもいいよ。でもとにかく邪魔だけはしないで。

彩 そうやって正当化して、むかつく。

先輩 子どもかよ。

彩 は？

先輩 舞台はあんたが楽しむためのものじゃないから。

彩 ……。

先輩、去る。

苛立ち、椅子に座る彩。照明、集まる。

スマホを手にする彩。貧乏ゆすり。

彩 「死ぬ」「なんにも分かってない」「頭悪い」「マジでうざい」「キモ過ぎ」「死ぬ」

スマホを雑に放る。

俯いてこらえていたが我慢できず、机からカッターを取り出す。刃を出す。

客席に背を向け、太ももを出して刃を突き立て、横に切る。

上手側中央・明。

真弓、立位で発声練習・滑舌トレーニングを行う。

その間、彩は切り続けている。

しばらくして、真弓はリップロールをしようとするが、できない。

真弓 ん？ え、ムズ。……彩に訊いてみるか。

真弓、スマホを出し、入力。

真弓 「リップロールむずい」

通知音。彩、スマホのほうを見たが、視線を刃に戻す。切り続ける。

真弓、スマホを持ったまましばらく練習する。画面の反射で自分の顔を見ながら、

真弓 ぶっさー。

練習を続ける。やがて椅子に座る真弓。

真弓 「リップロール やり方」

検索。記事を読む。

真弓 へー。そっか。ふーん。なるほどね。

記事を読み込む真弓。

彩、机の中からタオルを出して刃を拭き、カッターを机にしまう。

タオルを傷にゆつくりと当てる。上からぐっと押さえる。

まくり上げていたスカートを被せる。その上から手を添える。

向きを変えて背もたれにもたれかかり、天井を見上げる。

真弓、リップロールが少しできた。

真弓 あ、できたんじゃない今？！

もう1度やる。やりながらスマホを操作。

通知音。反応しない彩。

やがてリップロールをやめる真弓。スマホを見つめて、

真弓 ……。

暗。暗闇。

着信音。上手側、下手側・明。

彩と真弓の通話。以降の通話はスマホを耳にあててもスピーカー設定でもどちらでも可。

彩 はいはい。

真弓 久しぶり。

彩 久しぶりだね、元気してた？

真弓 こっちのセリフだよ、全然返信してくれない。

彩 いろいろあったんさー。

真弓 期末テストとか？
彩 うわ、やだー、思い出したくない。
真弓 ひどかったの？
彩 新人公演はー？どうだった？
真弓 大変だったよー。セリフ覚え悪くてさ。めっちゃ緊張した。
彩 そうだよね。
真弓 本番あたまクラクラした。
彩 初舞台お疲れさまっす。
真弓 あざまーす。
彩 次は秋の大会だね。
真弓 彩は新人公演どうだった？
彩 あ、うちのトコのは死んだから。話すことナシ！
真弓 死んだってなに。
彩 それよりさ、私中学から台本書いてるのよ。
真弓 えっ、台本って書けるの？
彩 書けるのって、書かなきゃどうすんの。
真弓 台本って大人が書くもんじゃないの？
彩 生徒だって書くよ。
真弓 へえー。
彩 そういう子いない？
真弓 聞いたことない。なんかうちの顧問がすごいらしい。
彩 あー、そっち系なんだ。
真弓 どっち系？
彩 顧問っていうか、大人が書いて、直接演出まですると、イメージそのまんまの作品に仕上げられるじゃない？大人の視線にも耐えられる優秀なやつ。
真弓 よくわかんないけど、毎年大会は顧問のやつやるって。
彩 なんか複雑ー。
真弓 生徒が書くってほうがびっくりした。
彩 うちはさあ、嫌な先輩がいてさあ、そいつの台本使うことになりそうなんだよねえ……。
真弓 つまんないの？
彩 いや読んでないけど。
真弓 読んでないの？
彩 まだ途中なんだって。
真弓 案外面白いかもよ？
彩 いや絶対ない、遊びのない説教臭い凡作になるね。
真弓 辛辣う。
彩 でき、私の書いた台本、試しに読んでみてくれない？
真弓 え、読みたい！
彩 もし気に入ったら、そっちで使ってほしいんだ。
真弓 え、でも自分らでやったほうがクオリティ高いんじゃないの？

彩 そうなんだけど、個人的な体験とか、考えとか、思ってることが強く出すぎて、なんか、知られたくないっていうか、今の演劇部にそこまで心開けないんだよね。

真弓 あー、そんな感じなんだ。

彩 うん。だから、ネットで拾ったとかなんとか言って、みんな読んでほしいなって。

あわよくば大会の台本に！なーんて。

真弓 いいよ、わかった。いま送って！

彩 うん、ありがと。

彩、ノートパソコンを操作。

真弓 うれしーなー。

彩 なにが？

真弓 だって、私には心開いてるってことでしょ？

彩 やっぱ送るのやめよっかな。

真弓 ちよっとー。

彩 あくまで創作だからね？

真弓 わかってますー。

彩 ……まあ、真弓なら受け止めてくれると思うから、抵抗はない。

真弓 ふふーん、任せなさい。

彩 はい、送ったよ。

真弓 ありがと。

彩 あ、ちなみに主人公は、私の推しを想像してみて。

真弓 エナミン？

彩 うん。

真弓 好きだねーホント。

彩 若手俳優注目度ナンバー1とか言われてさ、うちらと大して歳変わんないんだよ？

純度の高い演技、おしとやかに見えて意外と野生児で運動神経が良くてノリも良くて

たくさん笑って優しく可愛くて美しさもある、落ち着いたコメントもできて、ふとした

ときに見える儂げな表情もたまらない。大人っぽくて包容力さえ感じる存在感。いろんな

ドラマ・映画に引っ張りだこ……、わかる。引っ張りたい気持ちわかる、さすが推し、最

高ッ。

真弓 熱っいね。

彩 熱っついよー。

真弓 高校のとき演劇部で全国大会に出たんでしょ？

彩 そうなのよ。

真弓 それ知って見る目変わった。

彩 だよね。変に親近感わくし。

真弓 彩って将来役者になりたいとかあるの？

彩 ううん、ない。

真弓 夢は？

彩 私は18歳になったら死ぬ。

真弓 ……。

彩 予定。

真弓 なんて？

彩 えー、やっぱ人間がキモいから。

真弓 なんて、18歳？

彩 ……SF映画でさ、人間を滅ぼしにきた宇宙人が、人間の愛や芸術に感動して撤退する定番あるじゃん？あれマジキモいんだよね。人間が宇宙人を使って人間自身を肯定する自慰行為。私はオナニーしないしセックスもしたくない。ほんとうの宇宙人は人間に愛を見たり付度なんてしない。容赦なく滅ぼすはず。滅ぼしてほしい。私ならそうする。だって人間は食欲で破壊的存在価値なんてないんだから。社会的にも純粋な子どもでいられなくなったら死ぬ。ただそれだけだよ。

真弓 ……なんとなく、言いたいことは分かるけど、じゃあ、ぜんぶ、なんの意味があるの？

彩 だから意味なんてないよこの世界に。ただ産まれただけ。

真弓 彩には、私と繋がってる意味、ある？

彩 ……、

真弓 ないの？

彩 待って。答え方を考えてる。

真弓 ……。

彩 初めて真弓の吹きを見たとき、【いいね】をしたとき、リップを送ったとき、私、嬉しかったんだ。それまでひとが何を吹いてるかなんてどうでもよかった。どうせみんな似たような言葉を吐いて欲求を満たそうとしてるんだって。あの日、なんとなく初めて検索機能を使ってみて、真弓に辿り着いた。自分と同じフォロー0、フォローワー0、鍵なしのアカウント。うまく言えないけど、わかったの、言葉が。積み重なったたくさんの言葉に共感できた。誰もいない宇宙の果てで、自分と同じ言語を使う宇宙人を見つけたような……。だから嬉しかった。分かり合える人がいるって。

真弓、すすり泣く。

彩 泣いてる？

真弓 泣いてない。

彩 うそ。

真弓 ……、私は、どうにかして、自分を肯定したいと思って生きてる。お母さんは、私と弟を置いて出ていった。なんとも思わなかったのか、つらくなかったのか、なんで電話の一つもしてくれないのか。今さらされても迷惑だけど……。

彩 ……。

真弓 うまく、言えない。

彩 わかるよ。

真弓 ……、自信ない。私は彩のこと、わかるなんて言えない。

彩 ……、いいんだよ。真弓はいてくれるだけで。

真弓 ……

彩 どこへ行っても、私が真弓を見つけるから。

真弓 ……すぎすぎ。

彩 真弓は優しい。

真弓 そんなことない。

彩 私なんかと繋がってってくれる。

真弓 ……、頼ってるんだと思う。表向きに出せない自分を、彩は受け止めてくれるから。

彩、微笑む。

彩 役に立ててるならよかった。

真弓 超立ってくれてる。

彩 ふふっ。

真弓 ……ねえ彩。

彩 ん？

真弓 初めて検索したのは、なんて言葉だった？

彩 ……「死にたい」

暗。

通知音。

プロジェクトで文字が映し出される。

「夏休み、ヒマ？」

「お盆以外活です(；<∩>)」

「そっかーアヤちゃんに会いたかったな」

「私なんかと会っても楽しくないですよ。
かわいくないし」

「アイコンかわいいじゃん」

「加工のおかげです！」

「本人見たらがっかりしますよ(；O；)」

「ハードル下げてるな笑」

「ほんとですって〜」

「じゃあそういうことにしといてやろう」

「あざす」

下手側中央・明

そこへ先輩。

先輩 なに携帯見てんの？

彩 ……。

先輩 自主練の時間とった意味わかってるの？

彩 (小声で) うっぎ。

先輩 ねえ。

彩、去ろうとする。先輩、彩の手首をつかむ。

彩 触んな(払う)。

先輩 友だちいる？

彩 は？

先輩 クラスに仲いい子いる？遊びに行ったり、連絡とる人。

彩 なんの関係があんですか。

先輩 ひとのこと見下してばっかだと孤独になるよ？

彩 え、だから？ だからなんだっての？

先輩 だからちゃんと話そうよ。私も人付き合いが苦手だから、彩の気持ちは

彩 そういうとこなんだよ！

先輩 ……。

彩 そういう、上から目線で人のこと見透かした気になって……、

先輩 それは彩も同じでしょ。

彩 ……、

先輩 自覚あるよね？

彩 ……。

先輩 同族嫌悪ってやつかな。はは、一応、私も自覚あるんだ。勝手にあの人はこういう人だ、

この人はこういう気持ちだって決めつけて。分かった気になって。私の主観でしかないのにさ……。そういうことだよ。ごめんね、先輩なのに。しっかりしなきゃね。

彩 違う……、

先輩 ん？

彩 お母さんみたいなこと言わないでよ……。

彩、うつろな目で爪を噛み始める。ゆらゆらと椅子へ向かう。照明、椅子周辺に集まってくる。先輩は去る。彩は椅子に座り、体を小さく前後運動。ぶつぶつと呟き始める。

彩 違う。私はおかしくない。みんながおかしい。頭が悪い。私だけが分かっている。こんなのおかしい。みんな気づいてない。気づかない意味が分からない。意味が分からない、おかしい。おかしい。なんで私が。私が……。

彩、急に静止。

【回想】

ゆっくりと机に視線を向け、ヘアバンド(もしくは縄跳びの縄。椅子の形状に合わせたもの)を取り出す。

椅子の背もたれに括り付けて輪を作り、自分の頭部を通す。

脱力し、首を吊る。

数秒して袖から声が聞こえる。

母親 彩ー、ごはんだよー。

母親、入る。

母親 彩？

母親、彩が目に入り、駆け寄る。

首からヘアバンドを取る。ゴトリと倒れる彩。意識が混濁している。
母親、彩の上半身を支えるように起こす。

母親 彩！ 彩！

彩、手を母親の目元に持っていき、母の涙に触れる。

母親 彩……、ごめんね、つらかったよね。ごめんね。

母親、彩を抱きしめる。

母親 お母さんが、もっと早く、気づいてたら……、ごめん……。

【回想終わり】母親、彩の顔を見て静止。

彩、母親の手をそっと退かし、上半身を完全に起こす。
気だるげな体の状態で、母親を見つめる。

彩 母の、この表情を忘れられない。

彩、立ち上がる。

彩 物心つく前から、私は暴力を受けていた。近所に住む、母の弟から。

静止する母親の肩に触れる。

彩 会うたび、二人きりになるたびに、アイツは私に触れてきた。体中、ぜんぶ……。私の皮膚に、内臓に、欲の手垢がこびり付いている。アイツの臭いが染み込んでいる。アイツの声、顔、指の感触、肌の熱さ、滴る汁が忘れられない。消えろって願えば願うほど、もっと思い出すようになる……。中2の夏、母が気づいた。引越すことになった。

父親は、『なんで言わなかったんだ』『なんで逃げなかったんだ』って………
なんで、わたし、責められてるんだろう。なんで？そんなの私も分かんない、
こっちが聞きたいよ………！！

彩、背面から母親を抱きしめる。

彩 ……でも大丈夫。大丈夫だから。心配しないで。私のせいで、そんな顔しないで……。

励ます。母を。自分自身のこと。無理やり笑顔をつくる。母の髪を撫でる。

下手側・溶暗。

上手側・明。

真弓が入ってくる。スマホを取り出し、入力。言葉を選んでいる。

通知音。

下手側・明。母親はいない。彩、床にだらりとし、体に力が入っていない。

再び通知音。彩、ゆっくりとスマホのほうを見、這って行ってスマホを手に取り、見る。

真弓 「台本だめだった」「今年も顧問創作」

彩の手からスマホが落ちる。

彩 ……。

落ちたスマホをじっと見る。(裏表どちらでも)
通知音。

真弓 「話せる？」

彩、スマホを床に置いたまま、うずくまった状態で通話ボタンをタップする。
呼び出し音。すぐに応じる真弓。彩はスピーカー設定。

真弓 はい、そっちから掛かかってくると思わなかった。ちょっとびっくり。

彩 ……。

真弓 彩？

彩 うん。

真弓 聞こえてる？

彩 聞こえる。

真弓 どしたの？なんかあった？

彩 ……(深く息を吸い、吐く)。

真弓 彩？

彩 大丈夫。

真弓 ほんと？
彩 うん。

彩、スマホを手取る。

彩 真弓の声聴いたら、ちょっと楽になった。

真弓 つらい？

彩 大丈夫。

真弓 ……もし、私でよかったら、話、聴くからね？なんでもいつでも、

彩 ありがとう。でもほんと、大丈夫だから。心配してほしくない。真弓まで、そっち側に
行ってほしくない。

真弓 そっち側？

彩 ……、彩は、こっち側でいて。

真弓 ……うん。私は、彩側でいる。彩のそばにいる。

彩 ふふ、うれしい。

真弓 ふふ、照れくさいなあ。

彩 やっぱり、真弓はいいね。

真弓 あ、私いま褒められた？

彩 うん、褒めた。

真弓 いえーい。

2人、笑う。

真弓 あ、それでき、あの台本んだけど、なんか、描写っていうの？その、描かれてるものが
すごいリアルで、生々しくって、感情とか、行動に説得力？みたいなものがあるって、文を
読んでるだけなのに凄みを感じたの。どこまでが事実かは分からないけど、きっと、あれ
は彩の半生そのものなんじゃないかって、思ったの。想像だけ。……つらい気持ちと
向き合わないと、書けないと思うから、だから、読ませてくれてありがとう。ほんとうに。

彩、床におでこを打ち付ける。

真弓 彩？……もしもし？彩？！……彩？！

彩 なんて言われた……？

真弓 え？

彩 先輩とか、台本の感想。

真弓 あー……。

彩 遠慮しないで。

真弓 ……「とがってる」とか「理解できない」とか「高校生らしくない」って。

彩 ……。

真弓 でもわーちゃん、あ、渡邊さんはね、彩の台本好きって言ってたよ。

彩 ……

真弓 だから来年さ、私と渡邊さんでゴリ押しして、上演しようと思ってるから。彩にも観てもらって、完璧にして、大会で上演する。そして勝つ。どう？いいでしょ。期待しててよー？

彩 できない約束しないほうがいいよ。
真弓 ……えっ？

通話が切れる。下手側・暗。

真弓 彩？

暗。暗闇。

通知音。

プロジェクトで文字が映し出される。

「彩！地区大会突破した！」

「彩ー、元気？」

明日県大会です。

彩のぶんまで頑張るね！

彩に会えるよう、

ブロック大会目指します。」

着信音。しばらく鳴って切れる。

「彩。会いに行けるよ。」

文字、消える。暗闇。

溶明。舞台中央に彩が照らされる。

彩

12月23日。配信で知り合ったナオトさんと待ち合わせた。街で遊んだあと、彼の泊まるホテルに行った。お酒を勧められた。梅酒はおいしい。焼酎はまずかった。ベッドに座って、肩を抱かれてキスをした。頭がふわふわした。そのまま裸にされて、セックスをした。ピルを飲んでいる話をしていたからか、ゴムなしでされた。2回目までは覚えてる。朝、目覚めたときの気分は最悪だった。吐き気がして、ベッドの横のゴミ箱に吐いた。ベッドシートが少し汚れた。太ももの内側がべたべたする。トイレに駆け込んでまた吐いた。口をすすいで鏡を見る。やつれた青白い女がいた。ああ、こいつもう死んでる、死んだほうが幸せな奴だ。あはははは、生きているほうがつらい奴だわ。よくこんな顔で生きてられたもんだ。えらい。私えらい！よし、死のう！

彩、舞台中央後方に積み上げられた台へ向かう。

彩

パンツを穿いて、残っていた酒を飲みほした。持っていたピル全部と頭痛薬、相手のカバンを漁ったら、なんかの錠剤が出てきたから全部飲んだ。カーテンを開ける。目の前にそびえ立つ高い建物が見えた。適当に服を着て、部屋を出る。さっき見えた建物にのぼる。ふらふらする。頭が痛い。ぼやける視界の中、屋上ではないけど、ひらけた広場に出た。芝生がある。薄く雪が積もっている。あ、今日クリスマススイブか。見上げると灰色の雲。ああ、暗いなあ。歩くとよろけるから手すりを掴む。透明なガラスみたいな柵と一緒に、広場を囲っている。なんとか手すりに足をかけて、柵の上に手をかけた。跨いで、反対側に降りた。少し歩くともう足場がない。下を見ると人が点に見える。誰も上を気にしない。カップルたちはお互いの顔を見つめる。きっと幸せになる。未来を見つめている。ああっ、あああ、あああ……………！

彩、背中から飛び降りる。暗。

間。

舞台中央に真弓が照らされる。

茫然とし、しばらく言葉が出ない。

真弓

12月24日。ブロック大会1日目。うちの高校の上演日だった。その日の夜、私たちが泊まるホテルからそう遠くない商業施設の10階から、高校生が飛び降りたというニュースを知った。奇跡的に誰も巻き込まなかったけれど、彼女の行為は批判を浴びた。テロだと言われて晒された。彩の両親はいま、どう思っているのだろう。死にたいのかな、と思う。私でさえ思っている。一人娘を失って、どうしているのだろう。うちの母とは違うと思う。彩への怒りが込み上げてきて、けれどすぐに悲しみが混ざって消えていく。そしてふと思う。勝手にこの世に産み落とすことだって、テロじゃないのか？ 大会が終わって家に帰ったら、手紙が届いていた。生前なぜか聞かれた住所に、彩が送っていた。

真弓、手紙を出し、読む。

真弓

「真弓へ」

この世界に平和なんてない。この世界の根源は欲望。そこから派生している数多くの問題。それらは止めることができないと思う。私たちはヒト、ホモサピエンス。所詮動物だから。求めることをやめられない。延々繰り返し返すだけ。新たな問題が次々と起こる。その中で、私が囚われているのは『性』のこと。いつだって私たちはただの食い物、肉の塊。搾取され、消費され、侵され続ける側でいる。反対側で傍観する人たち、被害者を責める人たち、加害者を守る人たち。服役してもすぐに出てくる。結局やったもん勝ち、やられたもん負け。向こう側の権利ばかりが尊重されて、私たちは隅に追いやられていく。安心できる場所なんてない。それでも、だからこそ、声を上げてこの世界で戦ってくれる人たちがいる。私たちの生きやすさのために命を懸けて動く強い人たちがいる。私は、真弓もそうなると思うんだ。ちゃんと声を聴いてくれるし、前向きだし、偏差値高い高校行ってるし笑、優しいから、生きる力が備わってる。それを私は奪ってしまう。私にはどうしようもない

憎悪がある。引越す前の日、私は叔父を殺しに行った。でも敵わなかった。行き場を失くした刃は、どこへ向ければ良かったのかな。こんな墮落した私でも、真弓はきつとそばにいてくれようとする。それが私も嬉しくて、つい甘えてしまう。引きずり込んでしまう。自分の孤独を埋めるために。欲を満たすために。それは嫌。それはいけない。真弓は、私よりずっと強いから、地球で生きていけると思う。今日になるまで迷ってたけど、私はもうここを離れる。そのための、最後の踏ん切りをつけに行く。

真弓、読んでくれてありがとう。ばいばい。会いたかったよ。

「彩より」

真弓、読んでいるあいだ立っていられず、徐々にうずくまっていくな。

読み終え、手紙を抱きしめる。叫ぶように泣く。

彩という星の重力に引き寄せられていく。

真弓 彩……、私も会いたいよ……。

声(音響・収録)が聞こえてくる。それはニュース音声やネット記事、SNSの言葉。

聞き取りやすいよう複数人で分けて収録する。

混沌さを出すため、各文の前後が重なっていいよ。

声・「2022年2月、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、現在も各地で厳しい状況が続いています。ミサイルによって集合住宅が破壊され、子どもを含む20名以上が犠牲となったということです。現場では花や玩具が手向けられ……」

・2021年3月、市内の公園で中学2年生の女子生徒が遺体で見られました。学校の先輩や他校の上級生、下級生から陰湿な性的いじめを受けていました。加害者らは裸の撮影や自慰行為を強要し、画像・動画をグループチャットで拡散。自殺を煽り、死に至らしめました。しかし当時14歳未満は刑事責任を問われず、強要罪も証拠不十分で嚴重注意処分。警察の調べに対し虚偽証言や証拠隠滅を図った上、再度画像を拡散させるなど反省の色を見せておらず……」

・「男子大学生4人は、被害者の酒にレイプドラッグを混ぜ、抵抗できない状態にした上で犯行に及んだということです。支援団体や専門家は、飲みかけで離席しないこと、戻ってきた際には新しいものと交換するなど、注意促しています」

・「モスクに男が侵入して銃を乱射。複数の死傷者が出ています。先月にはアジア人男性が街中で突然殴打される事件が起こり、先週には家を間違えてドアを開けようとしていた高齢の黒人男性が射殺される事件が起きています」

・「被告は女性の跡をつけ、自宅の扉を開けたと同時に侵入。被害者を強姦したのち首を絞めて殺害しました。動機について犯人は、『顔がタイプだった。仕事がうまくいっておらずイライラしていた』と話しているとのことです」

・「傷害の容疑で逮捕しました。警察によりますと、容疑者は当時小学3年生の長男に対し、腹を複数回殴ったり背中を蹴る、踏み付けるなどの暴行を加え、全治約6カ月の肺挫傷、上腕骨骨折などの重傷を負わせた疑いが持たれています。また、病院での検査では、長男の体に

古い骨折のあとが複数見られたり、不自然な火傷のあとが確認されており、以前から虐待を行っていた可能性がある」とみて調べを進めています。」

・「容疑者はトイレ内の壁にネジ型カメラを取り付け、トイレ内の様子を撮影していたとのことです。10年前から電車内やエスカレーターでも盗撮行為に及んでおり、警察は余罪についても調べています。被害者は1000人を超えると見られています」

・「また飲食店での迷惑行為がSNSで拡散され炎上しています。動画では……」

・「今月9日、県内の公園で10代女性を車に押し込み、性的暴行を加えたとしてアルバイト男性24歳を逮捕しました。男と女性に面識はなく……」

・「物価が上昇する中、政府は防衛費確保のため異次元の増税を進めていくと述べました。昨日のミサイル発射についても触れ、誠に遺憾であり、強く抗議をしていきたいと述べました」

・「同署によると20日未明、『公園内のトイレに赤ちゃんの遺体のようなものがある』と通報を受け、その後の捜査で自称無職19歳の女性を逮捕しました。「自分が産んだ」と容疑を認め
ており……」

・「セルフID反対」

・「トイレやお風呂は『生物学的性』で分けるべき。性別適合手術をしてほしい。安心して使えない」

・「心が女性っていうならこの恐怖が分かるはず」

・「身体男性に力で勝てるわけがない。男女別競技を見ればわかるでしょ？身体男性には勝てない」

・「AIの急速な進化に伴うリスク。技術はまだ未成熟であり、偏見やフェイクを含んで生成される推論に惑わされてはいけない。シンギュラリティ技術的特異点が訪れる未来に向け、各国政府は対応を……」

・「県によりますと男性教師は、2年前から勤務先の市立中学に通う女子生徒と交際し、複数回にわたってみだらな行為をしていました。また別の男性教師はSNSで知り合った県立高校の女子生徒と交際し、自宅などでわいせつ行為をしていました。ほか、男性教師ら4人を懲戒免職にしたと発表しました」

・「カーボンニュートラル、地球環境への配慮って、結局人間が生き延びるため仕方なくやっているだけでしょ？人口爆発、食糧危機、技術革新、資源不足。欲望のまま星を食い尽くして自滅するのが人間にはお似合いでしょ。私は反出生主義。こんな世界に子どもを送り出すなんて無理。」

・「男は自宅近くのゲームセンターで女性の頭を椅子で殴り、全治2カ月の重症を負わせた疑いで逮捕されました。警察の調べに……」

真弓、魂が抜けた表情で、宇宙の果てに目を向けている。

声は鳴りやまない。

幕。